

住民参加型でまちのリアルな情報を活用した平常時から災害時までの仕組みづくり事業 (豊洲スマートシティ連絡会)

■都市課題

【背景】江東区の避難地区である豊洲エリアにおいて住民・自治体・企業が連携して平時から有事に備える必要がある
【課題】住民やワーカーの参画機会の不足

■解決方策

住民が投稿したまちの画像を先端技術(位置推定・LLM画像検索)を活用して分析することでまちをモニタリングし、平時や災害時にいて状況把握や災害対策迅速化を目指す。

■KPI

	検証項目	目標
1	認知ルート、懸念点	改善点の特定
2	インセンティブ効果	インセンティブ効果確認
3	理解度、画像有用性	分析可能な画像60%
4	災害時の有用性確認	肯定的意見70%
5	行動変容の効果	肯定的意見70%
6	先端技術、データ活用による価値創造	肯定的意見80%

■実証実験の概要・目的

【検証する仮説1】住民参加型の仕組みをつくり日常生活の中で利用し続けられることで、フェーズフリーかつ持続可能なサービスを構築可能。
【検証する仮説2】住民の投稿画像により被災状況や場所を把握することで、平時は災害への備えに、災害時には迅速な復旧活動に貢献。

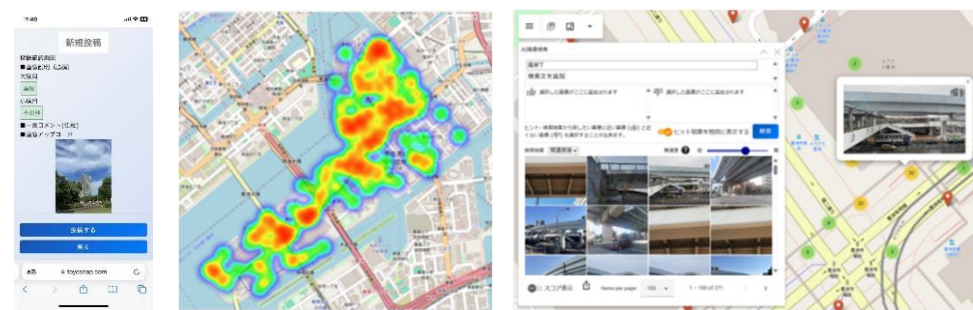
■実証実験の内容

①住民によるまちの画像投稿

②先端技術(位置推定・LLM画像検索)による画像分析

③利用者(住民・自治体・地域事業者)への分析結果提供

LLM×画像分析により住民が投稿した画像と分析結果が地図上に表示され、利用者(住民・自治体・地域事業者)は推定された撮影場所や状況を把握できる。フリーワードによる画像検索※も可能。
※実証実験では検索機能は自治体・地域事業者のみに提供



■実証実験で得られた成果・知見

仮説1 (KPI1~5)

住民アンケートの結果、肯定的意見が81%であり、**平時から継続利用することにより災害時に情報収集の手段として役に立つ**と評価

仮説2 (KPI4~6)

「現場からの情報共有が漏れることがあり情報の空白が生じやすい災害時に使える」という意見より、自治体職員目線で**住民から投稿された画像によるまちの状況把握は災害時に有用であると評価**

○実証実験を通して得た気づき

- ・楽しみや意義を感じられる投稿体験が住民の継続利用に繋がる。
- ・サービスの懸念点はプライバシーに加えて、通信容量、画像のアップロード速度や表示速度に関する回答が多く挙げられた。
- ・住民や地域事業者は、数mのズレであっても「位置がずれている」と感じる(GPSと同等を期待している)。

■今後の予定

- 継続利用を見据えたまち歩き企画やワークショップとの連携
- 江東区全域、東京都に対象エリアを拡大
- インフラ点検・事件事故共有等の平時活用検討を加速
- 高層階からの撮影や水面反射する人工物の位置推定対応
- 合致しない検索結果の表示抑制
- 分析対象へのSNS画像等の追加